

受講番号 19086 学校名 吾川中学校 氏名 保木 直美

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 21名
 科目名 2年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 NEW CROWN English Series 2

クラスの様子・特徴

個々での活動は集中力が高く熱心に、前向きに取り組むことができる。反面、全体の場で積極的に発表し、発言できる生徒は少ない。ペアやグループで取り組むことは好きで、意欲的に活動できるが、声がやや小さいので活気に欠けるように感じられる。

問題の確定

英語を使って自己表現することに消極的な雰囲気があるため、基本的な事柄の定着を図り、自己表現力を高めていく必要がある。

予備調査



A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
基本文練習では12の基本文をペアで日本語から英文へかえる練習をした。ほぼ全員が3分間休むことなく取り組んでいたし、適切な声を出せていた。しかし、全体の発表の声はまだまだ小さい。また、書く作業は個人差があり、時間がかかる。	<アンケート結果>①授業で難しいと思うこと……単語を覚えること、文を書くこと(65パーセント)②どのような授業をのぞむか…ペア活動(70%)、ゲーム形式(23%)、覚える時間をとる(17%)	CRT(2007. 5月実施) <領域別> 【聞くこと】99、【話すこと】102、【読むこと】115、【書くこと】119

リサーチ・クエスト



教科書のターゲットセンテンスをもとに、ある程度まとまった英文で自分のことや身の回りのことについて表現できるようにするためにはどのような指導をすればよいか。

仮説・実践・検証



仮説1	⇒	実践1	⇒	検証1
仲間同士の関わりを工夫し、ペア学習を多く取り入れることで、学習への意欲が高まり、自己表現の基礎となるターゲットセンテンスが定着するだろう。(センテンスシートの使用)		・出席番号を書いたカードを黒板にはりペアを作った。また隣同士、前後、班などいろいろな人とペアを組めるように工夫した。 ・A4版のシートには左側には日本語、右側には英語を書き、その時間の目的に合わせて、日本語→英文、英文→日本語、英文(肯定文)→英文(疑問文)、英文(疑問文)→英文(答え)など限られた時間内にペアできるだけたくさん言えるようにした。 ・世界旅行マップに成果を書き込んだ。		授業評価より、続けたいこととしてペア学習が大半をしめ、意欲的に取り組めたようだ。ペアの作り方には工夫が必要である。ターゲットセンテンスのペア学習では、読みの苦手な生徒の定着が悪く、練習する数を自分で決め、相手に伝え、目標の文を練習するようにした。苦手な生徒も得意な生徒とあまり変わらない文章数を言うことができ意欲的に取り組めていた。世界旅行マップは意欲付けの一つにはなったと思う。
仮説1で練習したターゲットセンテンスをもとにオリジナルの文をできるだけたくさん書くことで表現力の幅が広がるだろう。		・オリジナル文はいつでも使えるように専用のファイルを作った。 ・語句一覧表を配布し、自分の力で表現できないときは使用した。 ・ターゲットセンテンスは前の時間に提示し、事前に考えてくるよう呼びかけた。 ・黒板に文型の提示をし、語順等の確認や詳しい文の作成に使った。 ・書いた文章はその都度点検し、評価を入れた。		オリジナル文は語句を変えるだけの生徒が多いが、後半自分、友達、家族について書く生徒も増えた。英語の苦手な生徒はまず、本文のターゲットセンテンスを写すことから始めるように変更した。語句一覧表を助けにしようと考えていたが限られた時間内に使いこなすのは難しく自分の知っている語彙を使っている文が多かった。仲間の文を紹介し、どんなところがよいのかという評価も入れていくと興味を持って聞いていた。
仮説1、2を通して学習した英文等も利用し、「身近なこと」について、ある程度まとまった英文を書くことに挑戦し、評価をしていくことで一歩進んだ表現力がつくであろう。		・身近なことをトピックにあげ、そのことについてある程度まとまりのある英文で説明した。 ・できた文は発表や教科通信などを通じて紹介し、評価をしていった。 ・仮説1、2、3で使用した資料等は課終了後のテストにつなげた。		身近なことのトピックの説明は学習してきた語句や文章を使い表現している姿勢が多く見られたが、話題が見つからなくて苦労している生徒も多かった。生徒自身が納得いくものを仕上げるには時間がかなり必要である。「夏休みについて」はクラスで発表し興味を持って聞くことができた。教科通信などを通じて紹介していくつもりであったができていない。

研究の成果



ターゲットセンテンスのペア学習では、英語の苦手な生徒も目標とする数を自分で決め、相手に伝え、練習するようにした結果、他の生徒とあまり変わらない文章数を言うことができ意欲的に取り組めた。また、オリジナル文作成では何とか友達や家族のことを表現しようと取り組む生徒も出てきた。そしてオリジナル文に挑戦することで1学期初めよりも「主語＋動詞」の語順を意識しながら文章を書く生徒が増え、語順の定着が図れた。

今後の授業改善の課題

ターゲットセンテンスのペア学習や、オリジナル文作成は意欲的にできていたが、まとまった英文を書く作業ではどのような流れで書いていったらよいか迷っている生徒もいた。例文などを提示し文章の書き方にも慣れる必要がある。またある程度詳しい文を書くには時間もかかり、課の終わりごとに実施する予定であったができていないこともあった。継続して行うことで自己表現力のさらなる広がりを目指したい。

リサーチについての問合せ先: 職場電話 0889-35-0726